

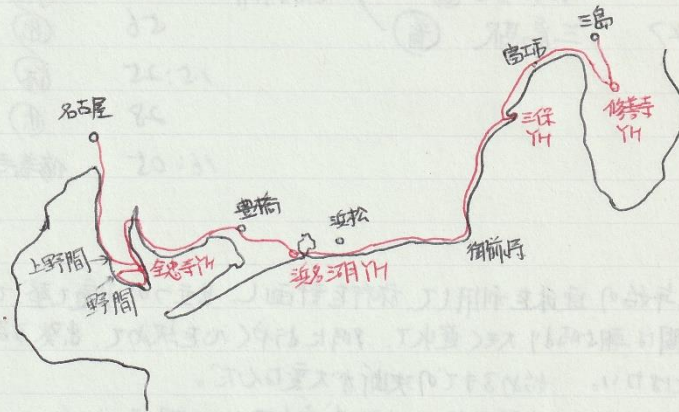
三島 修善寺 ~ 名古屋

1983年 12月30, 31日

1984年 1月1, 2, 3日

4泊5日

費用 ¥40,550-



1983年 12月30日

三島 — 修善寺 (修善寺YH)

12月31日

修善寺 — 清水市 (三保YH)

1984年 1月1日

清水市 — 浜名湖 (浜名湖YH)

1月2日

浜名湖 — 美浜町 (全忠寺YH)

1月3日

美浜町 — 名古屋

\*\*\*\*\*  
 \*\* チャリンコ旅日記 No.5 \*\*  
 \*\* Resistance Of My Mind 19910415 \*\*  
 \*\*\*\*\*

【 1983年 12/30日から 1/3日 三島市 から 名古屋市 437km 】

【 12月30日(金) 】 曇り/雨 走行距離 20Km  
 (電車) 前橋駅 → 東京 → 三島駅 走行時間 1時間48分  
 (自転車) 三島駅 → 修善寺

9:00	自宅 出る	14:17	三島駅 出る
10:00	新前橋駅 出る ¥4400-	31	R136乗る
12:40	東京駅 出る	39	休み 昼食¥690-
13:47	三島駅 着	56	出る
		15:25	休み 小雨降り出す
		28	出る
		16:05	修善寺YH着 ¥4600-

転職して初めての年末年始の休暇。旅立ちの準備は整っていたが、旅の不安に押しつぶされて、出発時間の朝5時を過ぎても布団の中で愚図愚図していた。そして今回の旅は中止してしまうつもりになっていた。しかし、ここでやめてしまったら今までの事が只の旅行になってしまう。日本一周を考えているのなら、走るっきゃない。気を取り直し時刻表を見直して、9時に何とか出発した。旅を始めてしまえば何の事はないが、始めるまでが大変。まだまだ、気の小さい私です。

【12月31日(土)】 晴

走行距離 70Km

修善寺 → 沼津市 → 清水市

走行時間 6時間34分

8:56	修善寺YH 出る	10:45	吉原駅
9:08	修善寺	11:46	由比駅
40	菰山港	12:16	休み 昼食 ¥850-
58	沼津市	13:00	三保
10:00	出る	35	羽衣の松 ジュース ¥120-
30	休み パンジュース ¥170-	15:30	三保YH ¥3970-
36	出る		

朝9時前、YHの玄関で一夜を共にした人達と記念撮影。YHに泊まっているとたとえその場限りでも、いろいろな人と知り合う事が出来る。それが楽しくて、写真を撮ると必ず相手の住所を聞いて後日送るようになっている。その相手としてはやはり、女性が多い。今回も、旅が終わってから修善寺YHで撮った写真を数人に送った。何日かして、返事の手紙が届いたが男性からは返事は来ない。

届いた手紙の一つに不思議なのがあった。その時は気付かなかったが、何度か見ていたら消印が変わっている事に気付いた。彼女は、修善寺YHでヘルパーをしていた人で、沼津市に住んでいる。当然、手紙の消印も地元の郵便局の印になるのだろうけれど、彼女から来た手紙には「前橋」の消印が押されていた。彼女は前橋まで来たのだろうか？ 心ときめく手紙の内容は、彼女の人の柄通りに温かかった。

7年前のことだから、今では彼女は、30歳くらいで良いお母さんになっているんじゃないかな。でも、記憶に蘇る彼女は、写真の中のまま。そして、仲間達も。

この手紙は、独りで歳をとって行く私の、良い思い出になっている。

修善寺から清水市まで、まだ6時間くらいしか走っていない。本当は御前崎まで走って新年を迎えたかった。昼頃、予約電話を掛けたら、御前崎のYHは満員で断られてしまった。しかたなく三保YHに泊まることにした。三保には、小学校の修学旅行で来た事がある。夕方空いた時間、三保の街を散策していて以前泊まったことのある旅館を偶然見つけた時は懐かしかった。早朝の三保の松原で海岸に出て、地元の漁師が準備してくれた地引き網を大勢で引いて網の中からグロテスクなあんこうが出てきたことを覚えている。その海岸を自転車を押して「彼女がいたらいいのになあ」と思いながら散歩。

YHに到着したのは、夕方3時半。公営のYHの為、家族連れも4組程いる。夕食後、テーブルを囲んでトランプに興じる。テレビは、NHKの紅白。夜も深まり12時近くになったとき、騒が

しかった部屋の中が静かになった。そして、窓を開け放して寒さを我慢してなにかを待っている。12時になったとき、港に停泊していた船が、一斉に汽笛を鳴らし始めた。汽笛の響きは厳粛で、みんなそれぞれの思いで静かに聞き入っていた。

こんな大晦日は、私にとって初めてだった。この時以来7年間、私は年末年始を自宅で過ごした事がなかった。

【1月1日(日)】 快晴

走行距離 135 Km

清水市 → 御前崎 → 浜松市

走行時間 8時間43分

9:00	三保YH 出る	14:17	休み 紅茶 ¥100-
37	登呂遺跡	23	出る
10:00	出る	15:06	太田川
17	用宗駅	15	福田町 パン、ジュース ¥350-
37	焼津市	27	出る
11:07	吉田町 紅茶 ¥100-	53	天竜川
13	出る	16:03	休み
12:09	御前崎燈台 風強い	08	出る
25	出る	17:07	休み 紅茶 ¥100-
45	休み 昼食 ¥1000-	12	出る
13:20	出る	22	新居町駅
		43	浜名湖YH 着 ¥2900-

早朝に、初日の出を見に独りで海岸へ行く。すでに海岸には、大勢の人が集まっていた。天気は快晴。碧黒くかすんだ富士山が港の向こうで、太陽の光の洗礼を受けようと静かにたたずんでいる。辺りが次第に明るくなり、白いパールに包まれた彼女は、うっすらとピンク色に染まり出す。そして、白いパールがすべてピンクに染まる頃、伊豆の山並に掛かる雲の縁が金色に輝き始め、一本の金色の光の矢が、波の上を飛んでくる。光の矢を受けた瞬間、彼女は、美しく燃え上がり光の中に融けて消えて行った。そこには雄大な富士山が、何もなかったかのように鎮座していた。

朝食後、浜松へ向けて走り出す。距離的には140 Km程しかないが、昼頃、御前崎を過ぎてから風向きが変わり強い向かい風になってしまった。平な道なのに坂道を登っている感じ。日が傾くに連れて寒さが増し不安もつものってくる。浜名湖に掛かる橋の上から湖に建つ鳥居の向こうに沈んで行く夕陽を見ながら「あと少し」と、自分を励ましている。YHの近くまで来たものの暗くてYHが見つからない。道行く地元の人に道を尋ねながら、YHに到着したのは、夕方6時過ぎ。



【1月2日(月)】 快晴

走行距離 145 Km

浜名湖YH → 碧南市 → 南知多町

走行時間 8時間8分

8:07	浜名湖YH 出る	12:51	衣浦海底トンネル
47	鷺津	13:22	武豊町
9:02	休み	31	休み ハン、ジュース ¥250-
05	出る	40	出る
12	新城原駅	14:28	師崎港 (羽豆崎)
24	二川駅	51	出る
45	豊橋市 路面電車	15:22	内海
10:55	蒲郡駅	37	野間 紅茶 ¥100-
11:10	休み	45	出る
13	出る	58	河和駅 ハン、ジュース ¥450-
50	吉良吉田 ハン、ジュース ¥180-	16:08	出る
55	出る	15	全忠寺YH 着
12:41	碧南市		¥3570-
45	出る		

浜名湖を見物する暇もなく、朝8時知多半島へ向かう。渥美半島は回らずに直接、豊橋市に入る。ここはまだ、路面電車が走っている。

蒲郡市から吉田町あたりの三河湾沿岸は、伊勢の松島といわれているがたいした景色ではない。碧南市に着いたのは、昼過ぎ。海底トンネルを自転車で走って、知多半島の付け根の半田市へ渡った。そろそろYHの予約をしようと思いながら走って、美浜町まで来て電話予約をする。知多半島YHは満員で断られ、しかたなく全忠寺YHへ予約する。

知多半島の先端、羽豆崎には、高台の上に展望台があり、ここから見る景色は、伊勢の松島と言った感じ。半島をまわり、野間に近くなると道沿いに知多半島YHがあった。YHから見る夕陽は美しいだろうに、ここに泊まることはできない。

半島を横断して野間から河和に帰る。河和にあるお寺のYH、全忠寺YHは、宿泊者2名。しかも、一人は個室を使用しているため、私は6畳間のテレビ付きの部屋に600円割り増しで泊まる。一人でテレビを見ながら過ごしていたが、お寺の割には、恐さを感じなかった。ただ、食事がとても質素だった。

【1月3日(火)】曇り/雨

走行距離 67Km

(自転車) 美浜町 → 常滑市 → 名古屋市

走行時間 3時間21分

(電車) 名古屋 → 東京 → 前橋

8:44	全忠寺YH 出る	10:34	聚楽園駅
9:01	上野間	45	出る
04	出る	11:37	熱田区役所 降雨みぞれ
25	常滑市	12:05	名古屋駅 ¥9200-
33	休み		
37	出る		
10:00	新舞子 (知多市)		
17	朝倉駅		

いよいよ、最終日。天気はくもり。天気予報では、昼頃には雨が降り出すと言う。急いで、名古屋へ向かう。河和から上野間の間は、オレンジラインといって道の両わきに、みかんの木が沢山ある。常滑市を過ぎ知多市へ入ると、空は次第に暗く落ち込んできた。

東海市の聚楽園駅の近くの岡の上に、大仏尊像と弘法大師像が建っている。そこに、立ち寄ってから出発すると、罰が当たったのか雨が降り出してしまった。

熱田区に入ると、熱田神宮の参拜者で道が混雑してくる。そのうち、雨も本降りになり、ジャンパーが濡れ出した。でもまだ、このまま走れそう。

名古屋駅に着いたとき、雨は相変わらず降り続けている。これで今回の旅が終わり「もう、自転車で走らなくても済む。」と思うと、ほっとした。駅前の交差点の脇で人目をばばかって、自転車の分解をする。何人かの人が、私の様子をのぞきこんで行く。名古屋駅の地下街で食事をして、14時12分発、こだま250号で、帰郷する。ほとんど、立ちっぱなしの混雑ぶり。故郷に近づくとつれ、だんだんと現実に戻されて行く。



三島・修善寺 ~ 名古屋  
サイクリング  
1983年12月30,31日  
1984年1月1,2,3日  
4泊5日

1231  
修善寺YH  
出発前



1983  
12月30日  
1984年1月1日



0101  
三保海岸より  
日の出前



0101  
初日の出  
(三保海岸より)



0101  
焼津市手前側、  
静岡市方面。







0101 浜名湖村. 夕景.



1231 羽衣の松



0101 日の出前 (三保)





0102

師崎港

(知多半島 羽豆崎)

0102  
羽豆崎より  
伊勢・志摩



0103

大仏尊像

(東海市 泉園)